



【学校教育目標】

笑顔いっぱい

Treasure Island



～気づき、考え、行動する 高島っ子を育てる～

長崎市立高島小中学校 校長 宇土 衛

子供を ほめて伸ばす！ は正しい！？

【叱り方のポイント】

前号にて、皆さんと一緒に「ほめ方のポイント」を考えました。今回は、「叱り方のポイント」です。「叱る」ということをどのように行えば、その子に届くのか考えていきましょう。

★行為を叱るが、人格は否定しないこと

「罪を責めるが、人は憎まず」です。「だからあなたは・・・」などと人格まで否定されると立ち直れません。

★過去の失敗を引き合いに出さないこと

過去の失敗で既に謝罪が済んでいるものまで話題にされると反感が生まれたりします。

★兄弟姉妹と比較しないこと

これはおそらく子供が一番嫌いな行為です。「ほらお兄ちゃんを見てごらん。」などと言われるとわけもなく兄を憎んでしまうかもしれません。

★自らの責任において叱ること

「騒いでいると係のおじさんに怒られるよ。」などと人のせいにしないで、自らの責任において「ダメ」と叱るべきです。

★逃げ場をすべて奪わないこと

「食事は抜きです。」「出ていきなさい。」「もううちの子じゃありません。」などはNGです。生存権の否定は取り返しがつかないことになりかねません。

★感情をストレートにぶつけ過ぎないこと

ある程度の感情をぶつけることは避けられないでしょう。厳しさは声色や目力に現れます。しかし、感情を開放しすぎると暴言になったり、手が出たりします。小さな子供

にとって大きな大人はそれだけで脅威です。どうしても怒りの感情が抑えきれない時は、いったんその場を離れることです。心は熱くても、頭をクールにしておくことが大事です。

★長々と説教しないこと

長い説教はまず聞いていません。長くなればなるほど指導の効果は薄れていきます。

★納得するような叱り方をすること

発達段階に合わせて、「なぜ叱られているのか」を十分納得させることです。押し付けや押さえ付けで言うことを聞かせても、一過性のものでしかありません。

★ダメなものはダメと断ずること

他の家で OK なことでも、我が家ではダメ。ダメなものはダメと言い切ることも大事です。「我が家ルール」はもちろん、あっていいのです。

★叱ることは痛みを伴うものと受け止めること

誰しも優しくしていたいし、嫌われたくないし、できれば怒らないでいてほしいと思っています。けれど、叱らないといけな場面は必ずあります。叱る時は叱る側も痛みを伴います。それを親として引き受ける覚悟が必要です。

【最後に】

ほめるも叱るも根っこにあるのは「揺るぎない愛情」であるはず。」「子供を健全に、より良く成長させたいという思い」であるはず。それなら、そのことがちゃんと届くように、真剣に愛情とアイ・メッセージ（私はこう思う）を込めて、しっかりと伝えていきましょう。

